

2. 高校生が性関係を持つことに対する考え方(自分のこととして)(表 20)

高校 2 年生に、「交際していると仮定して、高校 2 年生で自分が性関係を持つことをどう思いますか」と尋ねた(注:但し G0*群 [2004 年度] には、自分のこととしての性意識の質問を行っていないためこの項目に限り比較群なしで介入の前後比較のみとした)。「かまわないと思う」、「どちらかと言えばかまわないと思う」、「どちらかと言えばよくないと思う」、「よくないと思う」「わからない」の 5 段階で高校生の性関係の容認/否認の程度を調べた(表 20)

次に、介入による生徒の性意識の変化を、容認的变化と否認的变化をそれぞれ別々にスコアを用いて評価した(容認スコア、否認スコア)。容認スコアは、「かまわない」を 100 点、「どちらかと言えばかまわない」を 50 点とし、「どちらかと言えばよくない」「よくない」「わからない」「性関係の意味を知らない」に 0 点を与えて算出した。否認スコアは、逆に、「よくない」を 100 点、「どちらかと言えばよくない」を 50 点とし、「かまわない」「どちらかと言えばかまわない」「わからない」「性関係の意味を知らない」に 0 点を与えて算出した。

表 20 右端に高校 2 年生の性関係に対する高校生の性意識スコアを示した。それによると、介入群での変化は、フルモデル群 (G1) では、「容認スコア」は男子 5 点、女子 4 点減少し、「否認スコア」は男女とも 3 点の増加し、全体として性意識の抑制効果が観察された。教材一部欠如群 (G2) では、「容認スコア」は男子 1 点増加、女子は 2 点とわずかながら上昇し、「否認スコア」は男子 1 点上昇、女子で 1 点の減少で全体として意識の変容は確認されなかった。以上を、まとめると、本プロジェクトの WYSH 予防教育により高校生が自分のこととして性関係を持つことに対する高校生の容認意識も抑制されていることが示された。高校生に対する教育効果の特徴としては、中学生同様効果に男女差はなかったが、中学生ほど意識変容の教育効果は顕著ではなかった。

表 20 高校生の性関係容認意識 (スコア) 自分が高校 2 年生で性関係を持つことをどう思うか

		人数	かまわ ない	どちらかとい ばかまわ ない	どちらかとい ばいやだ	いやだ	わか ら ない	容認 スコ ア	否認 スコ ア	
G1 フルモデル	男子	事前	1276	44.0	20.8	10.0	8.1	16.0	54.4	13.1
		事後	1215	38.4	22.1	11.7	9.8	14.9	49.5	15.7
		差		-5.6	1.3	1.7	1.7	-1.1	-5.0	2.6
	女子	事前	1287	34.4	19.4	13.1	17.9	11.7	44.1	24.5
		事後	1219	30.3	20.0	14.4	19.9	11.7	40.3	27.1
		差		-4.1	0.6	1.3	2.0	0.0	-3.8	2.7
G2 一部欠如	男子	事前	801	38.6	21.7	13.0	10.1	14.2	49.5	16.6
		事後	792	40.5	20.5	11.2	11.7	14.6	50.8	17.3
		差		1.9	-1.2	-1.8	1.6	0.4	1.3	0.7
	女子	事前	1201	33.8	17.6	14.6	17.8	12.2	42.6	25.1
		事後	1161	34.6	19.1	12.7	17.8	10.7	44.2	24.2
		差		0.8	1.5	-1.9	0.0	-1.5	1.6	-1.0

■性意識の変容効果に関する考察

*** 中学校では大幅な変容効果見られたが、高校での効果は中学校ほど顕著でなかった背景**

1. 授業実施時間：

WYSH 授業実施に要した時間を比較すると、2 コマ以上実施群は中学校 90%、高校では 48% で顕著な差があった。さらに高校の各学校別に性意識に対する教育効果を測定し、効果の有無で 2 群に分類した。2 コマ以上の授業実施状況を「効果あり群」と「効果なし群」で比較した。2 コマ以上の授業実施状況は、男子では「効果あり群：効果なし群」で 43.8%：16.7%、女子では「効果あり群：効果なし群」で 50.0%：36.4%で男女とも意識変容のあった群で 2 コマ以上実施率が高率であった。（注：昨年度の中学校の性意識の変容への教育効果は今年度ほど顕著ではなかった。昨年度の参加中学校での 2 コマ以上授業実施率は 50%）これらの結果より、生徒に自ら考えさせる授業を展開し大幅な意識変容効果を得るためには、最低 2 コマ以上の授業が必要である可能性が示唆された。

2. 行動段階（ここでは性行動に対する意識段階）：

WYSH プロジェクト参加高校における生徒の性行動容認意識を各学校別に意識変容の効果を比較した。高校生の性関係の容認意識（自分が交際していると仮定して、高校 2 年生で自分が性関係を持つことを「かまわない」と認めている割合）を「効果あり群」と「効果なし群」で比較した。性関係容認率は、男子では「効果あり群：効果なし群」で 47.0%：41.3%、女子では「効果あり群：効果なし群」で 36.8%：32.6%で男女とも意識変容のあった群で性関係容認意識が高率であった。高校生でも特に性関係に消極的な層では、男子では抑制効果が見られず、女子ではむしろ活発化（寝た子を起こしていた）しており、生徒の行動段階（性行動の意識段階）にあわせた授業の必要性が示唆された。現実的に考えて、高校では、カリキュラムの関係上、性に関する教育にさける時間が限られているため、グループワーク等で生徒の意識変容を促す働きかけができない可能性が多いため、単なる知識提供場面においても、生徒の行動段階（性意識段階）を十分に踏まえた授業を実施する必要性が示唆された。

3. 他の性教育との併用（ここでは高校生の性関係を前提とした話題展開の教育等）：

WYSH プロジェクト参加高校の各学校別に「他の性教育との併用」の割合を検討した。併用率を「効果あり群」と「効果なし群」で比較した。併用率は、男子では「効果あり群：効果なし群」で 18.8%：83.3%、女子では「効果あり群：効果なし群」で 14.3%：72.7%で男女とも意識変容のあった群で他の性教育の併用率が高率であった（男子 $P=0.05$ 、女子 $P<0.01$ ）。性に関する教育には様々なものが存在するが、最終ゴールの異なる教材や教育内容の併用は生徒を混乱させる可能性もあるため、教育実施に関しては十分な配慮検討が必要であることが示唆された。

(3) リスク認知の変化

◆ 中学 3 年生

1. 将来の性感染症感染リスク認知(表 21)

性経験の有無に関わらず全ての中学 3 年生に、「将来、交際中に自分が性感染症に感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の 5 段階で、介入前後の自分自身の将来の STD 感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合 (%) を、介入前後で、性別・介入群別に示した (表 21)。まず、非介入 G0* 群では、『リスク認知群』の増加はわずかに男子 2%、女子 4%にとどまった。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群 (G1) では、男女とも 24%の増加、教材一部欠如群 (G2) でも、男女とも 21%の増加で、G1 群・G2 群ともに 20%を越える大幅なリスク認知の増加が観察された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、将来の自分自身の STD 感染に対するリスク認知が大幅に上昇することが示された。

男女で、G0* 群 (非介入群: 2004 年度) の『リスク認知群』の値を、G1 群、G2 群 (介入群) の値の分布と t 検定で比較すると、男女とも統計学的に有意であった (男女とも: $P < 0.001$)。

表 21. 自分が STD にかかる可能性があると思うか?

			かなりある+ありそうだ		
			人数	(%)	
G0* 非介入	男子	事前	1358	391	28.8
		事後	1350	420	31.1
		差		29	2.3
	女子	事前	1211	427	35.3
		事後	1193	470	39.4
		差		43	4.1
G1 フルモデル	男子	事前	1073	147	13.7
		事後	1048	397	37.9
		差		250	24.2
	女子	事前	1134	240	21.2
		事後	1114	502	45.1
		差		262	23.9
G2 一部欠如	男子	事前	2227	328	14.7
		事後	2174	766	35.2
		差		438	20.5
	女子	事前	2148	478	22.3
		事後	2121	913	43.0
		差		435	20.8

2. 将来の HIV 感染リスク認知(表 22)

性経験の有無に関わらず全ての中学 3 年生に、「将来、交際中に自分が HIV に感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の 5 段階で、介入前後の自分自身の将来の HIV 感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合 (%) を、介入前後で、性別・介入群別に示した (表 22)。まず、非介入 G0* 群では、『リスク認知群』の増加はわずかに男子 3%、女子 5%にとどまった。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群 (G1) では、男子 19%、女子 22%の増加、教材一部欠如群 (G2) でも、男子 17%、女子 20%の増加と G1 群・G2 群ともに 20%前後の大幅なリスク認知の増加が観察された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、STD 感染のリスク認知向上と同じく、将来の自分自身の HIV 感染に対するリスク認知も大幅に上昇することが明らかとなった。

表 22. 自分が HIV に感染する可能性があると思うか?

				かなりある+ありそうだ	
				人数	(%)
G0* 非介入	男子	事前	1358	288	21.2
		事後	1350	328	24.3
		差		40	3.1
	女子	事前	1211	326	26.9
		事後	1193	376	31.5
		差		50	4.6
G1 フルモデル	男子	事前	1073	134	12.5
		事後	1048	334	31.9
		差		200	19.4
	女子	事前	1134	183	16.1
		事後	1114	429	38.5
		差		246	22.4
G2 一部欠如	男子	事前	2227	271	12.2
		事後	2174	638	29.3
		差		367	17.2
	女子	事前	2148	371	17.3
		事後	2121	786	37.1
		差		415	19.8

◆高校2年生

1. 将来の性感染症感染リスク認知(表 23)

高校2年生に、「将来、自分が性感染症に感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の5段階で、介入前後の自分自身の将来のSTD感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合(%)を、介入前後で、性別・介入群別に示した(表23)。まず、非介入G0*群では、男子は変化なし、女子4%のリスク認知の減少が観察された。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群(G1)では、男子10%、女子では19%もの大幅増加、教材一部欠如群(G2)では、男女とも12%の増加とG1群・G2群ともに10~20%近くの大きなリスク認知の増加が観察された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、中学生同様、将来の自分自身のSTD感染に対するリスク認知が大幅に上昇することが示された。

男女で、G0*群(非介入群:2004年度)の『リスク認知群』の値を、G1群、G2群(介入群)の値の分布とt検定で比較すると、男女とも統計学的に有意であった($P<0.001$)。

表 23. 自分が STD にかかる可能性があると思うか?

		かなりある+ありそうだ			
		人数	(%)		
G0 非介入	男子	事前	391	131	33.5
		事後	380	129	33.9
		差		-2	0.4
	女子	事前	623	281	45.1
		事後	604	246	40.7
		差		-35	-4.4
G1 フルモデル	男子	事前	1276	297	23.3
		事後	1215	408	33.6
		差		111	10.3
	女子	事前	1287	239	18.6
		事後	1219	456	37.4
		差		217	18.8
G2 一部欠如	男子	事前	801	185	23.1
		事後	792	274	34.6
		差		89	11.5
	女子	事前	1201	248	20.6
		事後	1161	374	32.2
		差		126	11.6

2. 将来の HIV 感染リスク認知(表 24)

高校 2 年生に、「将来、自分が HIV に感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の 5 段階で、介入前後の自分自身の将来の HIV 感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合(%)を、介入前後で、性別・介入群別に示した(表 24)。まず、非介入 G0* 群では、男子変化なし、女子 4%のリスク認知の減少が見られた。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群(G1)では、男子 9%、女子 13%の増加、教材一部欠如群(G2)でも、男女とも 11%の増加で、G1 群・G2 群ともに 10%前後の大きなリスク認知の増加が観察された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、STD 感染のリスク認知向上よりはやや少ないが、将来の自分自身の HIV 感染に対するリスク認知もかなり上昇することが明らかとなった。

表 24. 自分が HIV に感染する可能性があると思うか?

		かなりある+ありそうだ			
		人数		(%)	
G0* 非介入	男子	事前	391	104	26.6
		事後	380	102	26.8
		差		-2	0.2
	女子	事前	623	213	34.2
		事後	604	183	30.3
		差		-30	-3.9
G1 フルモデル	男子	事前	1276	227	17.8
		事後	1215	322	26.5
		差		95	8.7
	女子	事前	1287	173	13.4
		事後	1219	327	26.8
		差		154	13.4
G2 一部欠如	男子	事前	801	130	16.2
		事後	792	213	26.9
		差		83	10.7
	女子	事前	1201	146	12.2
		事後	1161	266	22.9
		差		120	10.8

(4) 性行動の変化－性経験率とコンドーム使用率

1. 性経験率

◆中学3年生(表 25)

本介入により中学生の性行動が活発化したどうかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入群別に表 25 に示した。それによると、非介入群 G0*では、男子 3%、女子 1%の性経験率の上昇が見られ、介入群 G1 群では男女とも 1%の増加、G2 群でも男女とも 1%の増加で、非介入群、介入群どちらも数%経験率が上昇したが、介入群と非介入群との差異は認められず、これまで同様、本プロジェクトの予防介入により中学生の性行動は活発化していないことが再確認された。

表 25. 中学生の性経験率

				総数	人数	(%)
G0* 非介入	男子	事前	1358	83	6.1	
		事後	1350	125	9.3	
		差		42	3.1	
	女子	事前	1211	59	4.9	
		事後	1193	74	6.2	
		差		15	1.3	
G1 フルモデル	男子	事前	1073	36	3.4	
		事後	1048	49	4.7	
		差		13	1.3	
	女子	事前	1134	59	5.2	
		事後	1114	68	6.1	
		差		9	0.9	
G2 一部欠如	男子	事前	2227	96	4.3	
		事後	2174	113	5.2	
		差		17	0.9	
	女子	事前	2148	83	3.9	
		事後	2121	107	5.0	
		差		24	1.2	

◆高校2年生(表 26)

本介入により高校生の性行動が活発化したどうかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入群別に表 26 に示した。それによると非介入群 G0*群では、男子 4%、女子 2%の経験率の上昇が見られ、介入群 G1 では男子変化なし、女子 1%増、G2 群では男女とも 1%増加と、非介入群、介入群どちらも数%経験率が上昇したが、介入群と非介入群と統計的有意差は認められず、これまでに続き、本プロジェクトの予防介入により高校生の性行動が活発化していないことが再確認された。

表 26. 高校2年生の性経験率

				総数	人数	(%)
G0 非介入	男子	事前	391	66	16.9	
		事後	380	80	21.1	
		差		14	4.2	
	女子	事前	623	156	25.0	
		事後	604	165	27.3	
		差		9	2.3	
G1 フルモデル	男子	事前	1276	222	17.4	
		事後	1215	209	17.2	
		差		-13	-0.2	
	女子	事前	1287	310	24.1	
		事後	1219	307	25.2	
		差		-3	1.1	
G2 一部欠如	男子	事前	801	113	14.1	
		事後	792	118	14.9	
		差		5	0.8	
	女子	事前	1201	354	29.5	
		事後	1161	354	30.5	
		差		0	1.0	

2. コンドーム使用率

◆中学3年生(表 27)

介入により中学生の予防行動が促進されたかどうかを調べるために、介入前後のコンドーム使用率を比較した。一番最近のコンドーム使用率を介入前後で性別・介入群別に表 27 に示した。

(注：昨年度まではコンドーム使用状況に関しては「過去3ヶ月のコンドーム使用状況」を尋ねていたが、授業実施時期により、過去3ヶ月という期間では介入前も含まれてしまい、介入効果が適切に測定されていなかったため、今年度から一番最近のコンドームの使用率を尋ねる形式に変更した。)

ただし、今年度は非介入群に該当する学校がなく、以前の非介入群を比較群として使用できないため、比較群なしの前後比較試験とした。その結果、コンドーム使用率は介入群 G1 群では、男子は 13%増加、女子 16%増加と男女とも大幅な増加が観察された。一方、G2 群では、男子では 4%減少、女子では 3%増加で、フルモデル群のような顕著な予防効果は観察されなかった。但し、教育前のコンドーム使用率が G1 群と G2 群では、異なり、特に G2 群男子は教育前のコンドーム使用率が 60%を超えていたため、シーリング効果により効果測定されにくかった可能性もあると考えられる。以上をまとめると、教育前のコンドーム使用率が 50%以下の比較的使用率の低い群では、今回の WYSH 教育は予防行動（コンドーム使用促進）に大きな効果があることが示された。

表 27. 中学生のコンドーム使用率（一番最近の性行為時）

				総数	人数	(%)
G1 フルモデル	男子	事前	36	16	44.4	
		事後	49	28	57.1	
		差		12	12.7	
	女子	事前	59	29	49.2	
		事後	68	44	64.7	
		差		15	15.6	
G2 一部欠如	男子	事前	96	59	61.5	
		事後	113	65	57.5	
		差		6	-3.9	
	女子	事前	83	46	55.4	
		事後	107	62	57.9	
		差		16	2.5	

* 性経験者中の割合

◆高校2年生(表 28)

介入により高校生の予防行動が促進されたかどうかを調べるために、介入前後のコンドーム使用率を比較した。一番最近のコンドーム使用率を介入前後で性別・介入群別に表 28 に示した。

(注：昨年度まではコンドーム使用状況に関しては「過去3ヶ月のコンドーム使用状況」を尋ねていたが、授業実施時期により、過去3ヶ月という期間では介入前も含まれてしまい、介入効果が適切に測定されていなかったため、今年度から一番最近のコンドームの使用率を尋ねる形式に変更した。そのため、コンドーム使用率に関してだけはG0群には従来の比較群を用いず、学校数は極めて少ないが今年度の不完全授業群を非介入群として代用した。)

その結果、コンドーム使用率は非介入群では男子で35%減少、女子で4%減少と程度の差はあれ、男女ともコンドーム使用率が減少していた。それに対し、介入群G1群では、男子は1%減少、女子2%増加と男女ともほとんど変化がなかった。一方、G2群では、男子では3%増加、女子では5%増加で、男女とも微増傾向が観察された。高校生では中学生のような顕著な予防効果(コンドーム使用促進効果)は観察されなかった。但し、高校生では、教育前のコンドーム使用率がG0群では、男子92%、女子81%、G1群では男子78%、女子72%、G2群でも、男子83%、女子65%と、中学生とは異なり、極めて高率であったため、シーリング効果の可能性もあると考えられる。

表 28. 高校生のコンドーム使用率 (一番最近の性行為時)

			総数	人数	(%)
G0** 非介入 (不完全)	男子	事前	13	12	92.3
		事後	14	8	57.1
		差		-4	-35.2
	女子	事前	70	57	81.4
		事後	76	59	77.6
		差		2	-3.8
G1 フルモデル	男子	事前	222	172	77.5
		事後	209	159	76.1
		差		-13	-1.4
	女子	事前	310	223	71.9
		事後	307	226	73.6
		差		3	1.7
G2 一部欠如	男子	事前	113	94	83.2
		事後	118	102	86.4
		差		8	3.3
	女子	事前	354	229	64.7
		事後	354	248	70.1
		差		19	5.4

* 性経験者中の割合

(5) WYSH 教育を実施した教師の感想（自由記載）

WYSH プロジェクトに参加し WYSH 教育を実施した教師に対し WYSH 教育を行って「良かった点」「困った点」を尋ねた（自由記載）。これらの自由記載の質的データの帰納的内容分析を行った。但し時間的な制約から、本報告書には初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。

◆中学3年生に対する WYSH 教育実施のコメント

2006 年度の WYSH プロジェクトへの参加中学校は 86 校で、授業実施状況に関するアンケートの回答率は 100%であった。

1. 良かった点

1-1 教員にとって良かった点

① 教材が使いやすい・授業がやりやすい（37校）

代表例：あらかじめ、モデルがあったのでやりやすかった。/非常に取り組みやすい内容と、データが自分の学校分ふくまれていることもあり生徒の受け入れ方も良かった/パワーポイントが、とてもわかりやすく、生徒が真剣に話しを聞いていた。/資料が豊富にあり、生徒に提示しやすかった。/性教育をしなければならないというのはわかっていたが、実際のところどのような流れでどんな資料を使って、ということがわからなかった。しかし、今回これに参加して両方とも提示されたものを使うことができ、授業がやりやすかった。

② 教員の意識・知識向上（16校）

代表例：教師の性教育に対する関心を高めることができた/授業をやる教員側も生徒の表情や事後アンケートからやってよかったという満足感と自分も成長できたという声がありました。/研修をしてその内容を実際に授業に生かせること、研修の中でどのように教えればよいのかなど勉強になった。/自分自身の今までのやり方を問い直す機会となった。

③ 各校の現状に適した授業実施可能（16校）

代表例：学年の実態がすごく分かる。/子どもたちの正確な実態をつかみそれに基づいた資料教材づくりができた。/アンケートを実施し、生徒の実態に合ったものを行えた/なかなか踏みこめなかったが、生徒の実態がアンケートにより把握でき、その上立って授業を考えることが出来た。

④ 協力体制が得られやすい（10校）

代表例：教職員全体に説明するとき、自信を持って行え、納得してもらいやすい。アンケート結果等、データに基づいているので説得力があること。/体育科教諭を中心にチームを組んで進めることが出来たので、指導内容や教材等について事前、事後の話し合いを何回も持つことが出来、共通理解を深めることが出来た。/学校全体で性教育について研究する機会となった。/これまでも、性教育を行ってはきたが、多くの職員と共通理解を深めた上で、積極的な実践を行うことができた。

⑤ 性教育の枠を超えた効果（8校）

代表例：テーマは性にとどまらず、先生と生徒が話をする糸口になったこと/クラスがまとまったという感想もあった。/学活や道徳の授業や様々な場で、生徒と教師が本音で語る機会が増え、生徒との距離が近くなった。/学級担任、生徒のつながりが深まったと感ずることができた。/グループワークで「人の意見を聞けてよかった」という感想があり、より話しやすい仲間づくりができたように思いました。

1-2 生徒にとって良かった点

① 生徒の意識向上 (7校)

代表例：子どもの意識が大きく変化したことがはっきりとわかりました。子どもの心に深く感銘を与えたことも手にとるようにわかりました。/STDについて、興味関心を持つきっかけになり、さらに深く知りたいと思う生徒が確実に増えたこと/生徒の感想からは「自分のことを大切にしたい」「性行為はお互いの人間関係をちゃんと築いてからするべきだなと思った」などが聞かれ、実施して良かったと思った。

② 具体的なデータでわかりやすい(5校)

代表例：パワーポイント教材がわかりやすく、事後の感想でも、よくわかった。(84%)。だいたいわかった。(16%)という結果だった。/パワーポイントが、とてもわかりやすく、生徒が真剣に話しを聞いていた。/中絶クラミジアのビデオは短く、しかもとてもわかりやすいので、ほとんどの生徒が集中してみることで理解度も良かったように思います。

③ 生徒が受け入れやすい授業(5校)

代表例：非常に取り組みやすい内容と、データが自分の学校分ふくまれていることもあり生徒の受け入れ方も良かった/O×クイズー講義ーグループワークー他の意見を知る。ーダンスー感想という流れで実施したが、めりはりがあり、子ども達も意欲的に参加している様子が伺えた。/生徒にとっては恥ずかしかったり抵抗のある内容で有ったりもしましたが、しっかりうけとめて、考えることが出来ました。生徒達が知ってよかったと思うことはやはり、この授業は意義があったと思います。(教育って大切ですね)/とにかく生徒に大好評。わかりやすかった。楽しかった。先生の授業がまた、受けたいなどの感想を、たくさんもらった。

④ 生徒も積極的に参加できる(4校)

代表例：生徒にとって楽しく真剣に学ぶことができるプログラムだと思います。生徒の真剣な表情と笑顔がとても印象的で心にのこりました。指導している私自身もとてもワクワクして準備から楽しむことができました。/全員が真剣に授業に参加してくれた。/興味・関心が引き出され、グループワークに積極的に参加してくれた生徒が多かったこと。

⑤ 男女別授業の利点(4校)

代表例：男女別の座席が話しやすく意見もよくでていた。男子と女子を別にし、特に女子を先に実施することにより、はずかしさや、いやだ参加したくないという気持ちを出来るだけ少なくすることができたのではないかと思います。/男女別で、男女の意識や身体の違いを細かく指導した上で考え方の違いなどについて話しやすい雰囲気の中で行えたことが、生徒にとっても好評で指導者側としても手ごたえがありよかった。

⑥ 他生徒の意見が聞けた(3校)

代表例：グループワークで「人の意見を聞いてよかった」という感想があり、より話しやすい仲間づくりができたように思いました。/自分達自身を振り返り考えさせる、思考をどんどん深めさせて、お互いの意見を聞きあうことで友達同士での違う面を発見していたことは大きな成果だった。

2. 困った点

① 学校の協力体制・教師の理解(29校)

代表例：「性教育は、養護教諭が、」という雰囲気が、なかなかぬけず、担任、保体の教諭の積極的とりくみが、みられない。/他教員の「やらなくちゃ」という意識と

意欲。/組織的な活動を推進できず、自分一人で行ったため、職員の関心が、少なかつたと思う。/計画的に行うのが難しかった。/組織がしっかりと確立されておらず、一部の先生方の負担が大きく、授業をしない先生方は、人ごとのようなところがあり、さみしい思いをしました。

② 時間の確保(24校)

代表例：授業時間の確保が難しかった。/保健体育担当教諭が中心となるため性教育の必要性等の共通理解を全職員に図るための時間の確保が必要である。/指導内容等について担当者間で話し合う時間の確保が難しかった。/事前の打ち合せや事前授業など時間をつくるのが日々の学校生活の中で難しかったことです。/内容が豊富であり、普段の授業の時数では終わらない。時間の確保が難しかった。

③ 教師の知識・経験不足(10校)

代表例：実践する教師の資質。どんな思いで生徒が生きていってほしいと願っているかが生徒には伝わる。中途半端であったり、人生の経験等によって差がでる。/性教育をうけた機会がない先生が指導することの困難さ/担任がした方が良いという認識であるが、自信がない教師がいる。ねらいはわかるが教師の思いを自分の言葉で語れず、心を揺さぶる授業ができない。誰でもできるプレゼンシートに流れを提供するための工夫をするのに悩みます。

④ 授業の構成(10校)

代表例：性感染症の実態や知識から望ましい丁寧な人間関係へつなげることが難しい。/生徒の実態を考え、どこまで指導したらいいのかまた、パワーポイントの資料をどこまで活用すべきか。/実態は、まちまちであり、どんな資料や題材を取り上げた方がいいのか、指導案作成の段階において困った。

⑤ 教員間の意識のずれ(8校)

代表例：いろいろな人がいろいろな考え方を持っているので、それを1つにして、指導案を作成すること。/性に関する予防教育の必要性の教師間の認識の違い。/管理職は、あまり過激な内容にならないようにというが、どの辺を過激ととらえるのかは指導するものと意見の食い違いがある。

⑥ 生徒の意識の差(7校)

代表例：性に関する生徒の意識に個人差がありまた大きいため、内容の検討に困った。/意識の差が大きい。基礎知識にも差があるので一斉指導が困難のように思う。/生徒間の意識の差が大きかった。/性に関する考え方に個人差が非常に大きいのでなかなか性教育を実施しにくい。

⑦ 保護者の意識(4校)

代表例：学校の教育だけでは限界がある。家庭への働きかけをどのようにすればよいか。又、家庭の協力の得にくい所ほど、子どもの性行動へのハードルが低いのも気になる。

◆高校2年生に対する WYSH 教育実施のコメント

2006年度のWYSHプロジェクトへの参加高校は52校で、授業実施状況に関するアンケートの回答率は100%であった。

1. 良かった点

1-1 教師にとって良かった点

① 生徒との距離感接近（5校）

代表例：普段知ることのない生徒たちの価値観など様々な一面が見えた。/エイズについてだけでなく、話をする機会になった。/いろいろな教諭に協力してもらい、いろいろな体験談失敗談を語っていただいたことは、生徒と教諭の距離を近づけたのではないかと思う。また、教員間でも話すことのない話題であったが、それぞれ聞けて予防教育にも活かしていけると思う。/普段皆ではなすことがないので、いろいろ話ができ良かった。/グループワークからはクラスにて担任が実施したことにより、普段のクラスの雰囲気のままでき、担任とともに性の話ができただことで生徒たちも楽しんでた。

② 教材の使いやすさ・授業内容の教えやすさ（4校）

代表例：指導しやすかった点、教科書と時期をあわせることができた。/指導内容が整理されており、パワーポイント・ビデオともに重要な点がまとめられていた。/具体的なデータがパワーポイントの中にあるので、大変使いやすく分かりやすかった。/ビデオも短時間にまとまっていたので、利用しやすかった。/グラフや資料など説得力があった/映像で訴えることができたのは、生徒にも印象強く良かったのではないかと思う。(本校生徒の特性上)/視覚に訴えることができ、インパクトのつよい学習ができた。/エイズや性感染症の部分は、専門である保健体育科の教諭にしてもらったので、質問なども適宜対応していただけるのでよかったと思う。/的をしぼったパワーポイントにより授業がスムーズに行えた。また研修を受けていない教師にも抵抗なく授業ができた。

③ 担当教師の意識向上（4校）

代表例：教員のメッセージという形で、教員側も真剣に10代の生徒と自己に向き合うことができたのではないか/WYSH教育での性教育を実施していて、指導者自身が楽しくそしてとても勉強になったので大変良かった。/一年間取組、自分自身の成長につながった。/自分自身の勉強になった。

④ 他教員・学校の理解（3校）

代表例：全職員による取組を意識し実践したため、予防教育の必要性を広めることができた(教師、生徒ともに)保護者からも手紙をもらう等、本校の性教育について、職員全体で考えるきっかけとなった。

1-2 生徒にとって良かった点

① 生徒にとって身近で具体的なデータの教材でわかりやすい（13校）

代表例：具体的な県内での数が強烈だったようです。/本県の現状や高校生の意見などが、まとめられており、生徒が身近なものとして捉えられていた。/データが自分たちが住んでいる地域のものなので、生徒の興味関心をひいた/生徒にとって、県の各具体的な数値はインパクトがあり、理解できたようである。/身近な県のデータがあり、生徒にとって身近な問題として扱うことができた。/パワーポイントの実態グラフには声をあげながら食付いて来てくれ、興味を持って授業に臨んでいた。/全国と県とのデータの比較ができたことと、最新のデータで生徒たちへ伝えられた。

② 生徒が受けいれやすい授業構成(13校)

代表例：活発にグループワークができ、あまり活発でなかったクラスも感想文では他の人の意見を聞いてよかったと書いていたので成果は得られたと思う。/メリハリのある展開だったので、生徒が集中して最後までついてきていた。/教材が事前アンケートのもとに作られていて、生徒の身近なものになっていた。/構成が変化があって、生徒が集中しやすかった。/なまなましい内容ではないため、生徒も教員も心理的抵抗を感じにくい。/グループワークも予想よりまじめに取組み、各グループきちんと意見を述べることができた。/ほとんどの生徒は、興味をもって受講していた。特に女子生徒は性感染症は真剣に見聞きしていたように思う。

③ 生徒が積極的に参加できる(13校)

代表例：とても荒れている学年だったので、どんな授業になるかと心配していたが、どのクラスも集中して取り組んでいた。見学した先生からほかの授業でもあれぐらい活発に集中できたらと声があがるぐらいだった。/クイズ形式や問いかけに対して活発に発言していた。/かなり活発に全員が発言していた。/子ども達が本当に熱心に授業に参加していました。普通の授業の際は、ほとんど話を聞かない生徒が誰一人として寝ることなく、全員が参加していました。/日常、性について関心を表に出さない生徒でも積極的に参加し、正しい知識を得ようとしていた点。

④ 意識の向上(12校)

代表例：性や生き方について自分の問題としてとらえてくれた。/生徒の感想からも、「自分のこととして考えなければいけない」という内容が多かった。/周囲に影響されることなく自分を大切にしようとする生徒が増えた。/感想文のほとんどが、主体性をもって行動する必要性を述べていた。/性について生徒たちがじぶんありの考えを持つことができるようになった。/以前と比較して自分のこととして捉え考えている生徒が多い。

2. 困った点

① 学校の体制作り、他教師の理解(18校)

代表例：今回は2学年団の理解と協力を得られたが、学年団の構成メンバーによっては変わるかと心配する。/他の教員のプライドを傷つけないことも、考えねばならないことがわかった。

② 時間の確保(17校)

代表例：性教育のための時間の確保が年々難しくなっている。/年間の計画の中で、1時間しかとれなかったので、内容が盛りだくさんで内容の絞込みが必要だった。/行事の関係で1時間目と2時間目が2週間ほどあいたクラスが出てきた。

③ 授業の構成(7校)

代表例：生徒が発表した際、不適切な内容もあり、その対処に困っている先生もいた。/総合学科単位制高校のために、学年クラスを超えた選択授業が多く、クラス単位での実施機会が限られている。/性の問題なので、茶化してしまう生徒が数名いた。/限られた時間数の中でどこに狙いを定めるかを決めるのが大変だった。

④ 教師の知識・経験不足(6校)

代表例：保体科教員、養護教諭以外はどうしても授業をやりづらい。(経験の面から)最後のメッセージで何を言ったらいいかわからないという若い先生がいた。/教師自身が専門的知識が不足している。

⑤ 保護者の意識(5校)

代表例：保護者の意識改革が必要である（子供に無関心）。/男女交際について親公認（性関係も）のような家庭もある。/性行為については保護者も容認している家庭がある。/いわゆる性についての「垣根」が低い状態にある。その背景の一つとして、家庭環境に恵まれない生徒が多いことが考えられる。このような中で、学校としてどんな性教育が可能で有効なのか手探りの状態である。

⑥ 男女別の授業が難しい(3校)

代表例：男女比がバラバラなので、授業形式で男女をどうするかは問題/本校の特性として女子生徒が少ない、そのために、授業において男女混合とならざるをえない。/本校は工業高校ということもあり、男子生徒が9割を占める。日常で接することの少ない女性の身体的特徴を理解させるにはどのような教材を利用すればいいか。

⑦ 性教育に対する心理的抵抗感(2校)

代表例：「性に関する」教育に対する教員側の心理的抵抗。/改めて教師側の「性教育」への抵抗（心理面において）を感じた。/他教科（保健体育以外）の先生方は今まで研修したことがない（自分の指導されたことがない）ので、指導者側にたつことにかなり抵抗があった。

2006 年度全国の中学生/高校生に対する WYSH プロジェクトの評価のまとめ

今回のプロジェクトによって、以下のような成績が得られた。

(非教育群[WYSH 教育を実施していない群]と教育群[WYSH 教育を実施した群]との比較)

【中学 3 年生】

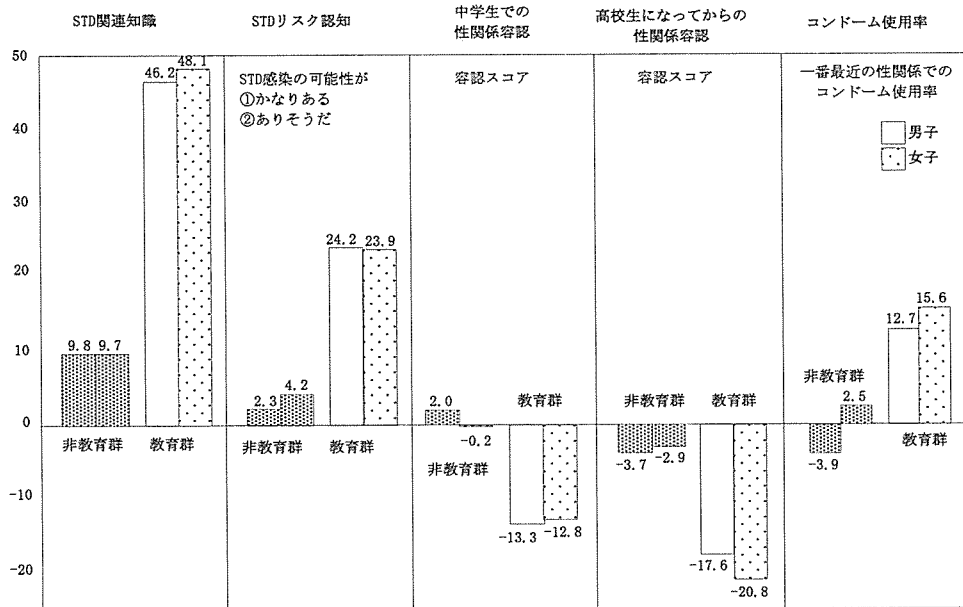
- ① 知識：HIV/STD 関連知識は非教育群では男女とも約 10%の増加にとどまったが、教育群では男女とも 知識が大幅に (約 50%) 上昇した。
- ② 性意識：[中学生が性関係を持つことへの容認意識]は、非教育群ではわずかな変化しかなかったが、教育群では 大幅な抑制効果 (容認意識の 10%以上の減少) が観察された。 さらに、「高校生になってから性関係をもつことへの容認意識」も、非教育群では、わずかな変化にとどまったが、教育群では大幅な抑制効果 (容認意識の 20%前後の減少) が示された。
- ③ リスク認知：「将来の自分の STD 感染リスク認知」は、非教育群では男女とも数%増加であったが、教育群では男女とも 20%以上の リスク認知の顕著な上昇が見られた。
- ④ 予防行動：[予防行動 (最後のコンドーム使用率)]は、非教育群ではあまり変化がないが、本プロジェクト実施群では、男女とも 10%を超える増加が見られた。
- ⑤ 性経験率：図中には示していないが、本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

【高校 2 年生】

- ① 知識：HIV/STD 関連知識は非教育群では男女とも 10%前後の増加であったが、教育群では男女とも 知識が大幅に (30%前後) 上昇した。
- ② 性意識：[高校生が性関係を持つことへの意識]は、男女とも性関係の容認意識が約 5%減少し、抑制効果が観察された。
- ③ リスク認知：「将来の自分の STD 感染リスク認知」は、非教育群ではほとんど変化がなかったが、教育群では リスク認知が大幅に (10%前後) 上昇し、特に女子では約 20%増加した。
- ④ 予防行動：[予防行動 (最後のコンドーム使用率)]は、非教育群では減少した (男子約 35%、女子約 4%) が、本プロジェクト実施群では、非教育群のようなコンドーム使用率の大幅減少は見られず、女子ではわずかに上昇した (約 2%)。
- ⑤ 性経験率：図中には示していないが、本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

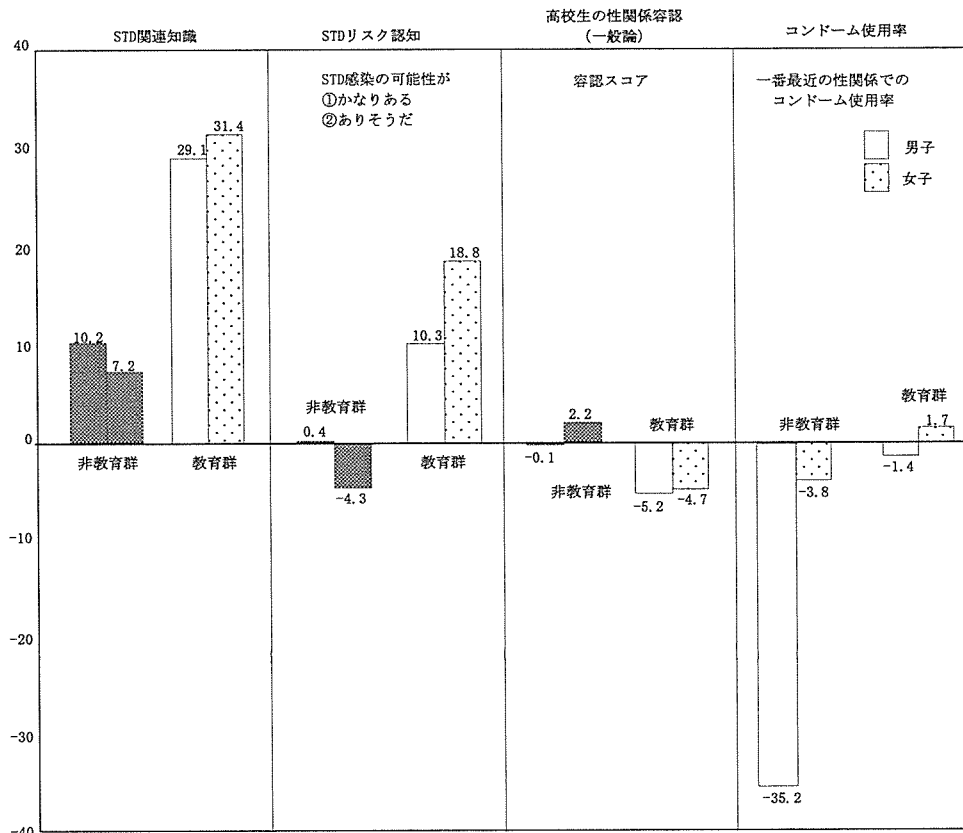
本プロジェクトで開発したモデル授業やその教材が、中学生・高校生の性行動を活発化させることなく、知識、性関係についての容認意識、リスク認知および予防行動 (中学生) に顕著な教育効果を示すことが確認された。

予防教育のまとめ：中学3年生
非教育群 VS 教育群



*①クラミジアはSTD ②STD/HIV相互作用 ③STDは無症状もあり ④STDは不妊の原因 ⑤STDは子宮がんの原因 ⑥地域の中絶増加

予防教育のまとめ：高校2年生
非教育群 VS 教育群



*①クラミジアはSTD ②STD/HIV相互作用 ③STDは無症状もあり ④STDは不妊の原因 ⑤STDは子宮がんの原因 ⑥地域の中絶増加

平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日までの講演リスト（学術学会を除く）

教育関係

1	国際ソロプチミスト高岡 主催（高岡市教育委員会：後援）	平成 18 年 05 月 12 日
2	鳥取県教育委員会 主催	平成 18 年 05 月 18～19 日
3	福島県教育庁教育指導領域健康教育グループ 主催	平成 18 年 05 月 23 日
4	国際ソロプチミスト京都一北山：京都市教育委員会 主催	平成 18 年 06 月 23 日
5	秋田県養護教諭研究会：県教育委員会 共催	平成 18 年 07 月 28 日
6	京都府綾部市教育委員会 主催	平成 18 年 09 月 14 日
7	富山県高等学校 PTA 連合会：県教育委員会 共催	平成 18 年 10 月 25 日
8	文部科学省 スポーツ・青少年学校健康教育課 主催	平成 18 年 11 月 09～10 日
9	石川県高等学校 PTA 連合会：県教育委員会 共催	平成 18 年 11 月 15 日
10	近畿公立学校教頭会：京都市公立学校教頭会協議会 主催	平成 18 年 11 月 24 日
11	独立行政法人 教員研修センター 主催：文部科学省 共催	平成 18 年 11 月 27 日
12	「性教育指導講習会・名古屋市」 文部科学省 主催	平成 19 年 02 月 07 日
13	「性教育指導講習会・松山市」 文部科学省 主催	平成 19 年 02 月 16 日
14	宮崎県教育委員会：医師会 主催（宮崎県高等学校 PTA 連合会 後援）	平成 19 年 02 月 17 日
15	兵庫県教育委員会 主催	平成 19 年 03 月 07 日
16	京都府教育委員会 主催	平成 19 年 03 月 09 日
17	近畿学校保健学会 主催	平成 18 年 06 月 17 日
18	財団法人 日本学校保健会 主催	平成 18 年 11 月 28 日
19	全国性教育研究団体連絡協議会 主催	平成 18 年 08 月 04 日

保護者関係

20	長野県高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 06 月 09 日
21	愛知県公立高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 06 月 16 日
22	全国高等学校 PTA 連合会：秋田県高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 08 月 25 日
23	全国高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 09 月 24 日
24	山梨県高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 11 月 18 日
25	和歌山県高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 12 月 02 日
26	北海道高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 12 月 09 日
27	大分県高等学校 PTA 連合会 主催	平成 18 年 12 月 17 日
28	全国高等学校 PTA 連合会：佐賀県高等学校 PTA 連合会 主催	平成 19 年 01 月 13 日
29	全国高等学校 PTA 連合会 主催	平成 19 年 02 月 11 日
30	神奈川県立高等学校 PTA 連合会 主催	平成 19 年 02 月 11 日

保健医療関係

31	市立函館保健所：函館・性と薬物を考える会：函館小児科医会函館産婦人科医会 共催	平成 18 年 10 月 14 日
32	愛知県赤十字血液センター 主催	平成 18 年 12 月 20 日
33	松山市保健所 主催	平成 19 年 01 月 23 日
34	大阪市保健所 主催	平成 19 年 03 月 27 日

その他の行政機関・市民団体・NGO 等

35	内閣府政策統括官（共生社会政策） 主催	平成 18 年 12 月 14 日
36	京都府庁青少年課 有害環境対策推進事業 主催	平成 19 年 02 月 27 日
37	札幌北区青少年健全育成推進会連絡会札幌市北区市民部地域振興課 共催	平成 18 年 07 月 08 日
38	ワイズメンズクラブ国際協会西日本区 主催	平成 18 年 07 月 22 日
39	「大学コンソーシアム京都」 京都産業大学全学共通教育センター 主催	平成 18 年 09 月 08 日
40	カリタスジャパン HIV/AIDS デスク 主催	平成 18 年 10 月 08 日
41	岡山県“人間と性”教育研究協議会 主催	平成 19 年 01 月 20 日
42	IWATE：生と性及びエイズ教育を考える会 主催	平成 19 年 02 月 25 日

ここにシールを
はってください

高校生用アンケート

ここにシールを
はってください

資料1

ここにシールを
はってください

まずはじめに基本的なおことをおきします

問1) あなたの性別をお答えください。(どちらかに○印)

1. 男 2. 女

問2) あなたの年齢と学年をお答えください。(「.....」に数字をかいてください)

.....歳 学年

あなた自身についておきします

問3) あなた自身について以下の質問に答えてください。

	それぞれあてはまる 番号にひとつ○印			わ か ら な い
	は い	い え	は い え	
1. 心から信じられる友人はいますか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>
2. 学校は楽しいですか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>
3. あなたは親(保護者)とよく話をしますか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>
4. 先生たちはすべての生徒に平等に接していると思いますか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>
5. あなたの話を真剣にきいてくれる大人がいますか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>
6. あなたは一日一日を大切に生きようとしていますか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>
7. 今の学校をやめたいと思ったことがありますか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>
8. 将来、実現したい夢がありますか?	↑	1. <input type="checkbox"/>	2. <input type="checkbox"/>	3. <input type="checkbox"/>